Chateau Peyre-Lebade

≪このワイナリーの美しさとワインの特性から得たインスピレーションを画家オディロン・ルドンは絵画作品に表現した。≫

シャトー・ペイル＝ルバードの歴史の陰には、幾人かの著名な人物の存在があります。ここでのブドウ栽培の歴史は、12世紀、ヴェルトゥイユ修道院のシトー派修道士の時代に遡ります。かの著名画家であるオディール・ルドンはここに暮らし、代表作品の大半がこの地で制作されています。それら作品にはこの地の魅力が存分に表現されています。1979年、当時放置された状態にあった同ドメーヌをエドモン・ド・ロートシルト男爵が購入します。男爵はその当時既にリストラック村とムーリス村に、それぞれシャトー・クラークおよびシャトー・マルメゾンを所有していました。現在、シャトー・ペイル＝ルバードは、エドモン男爵の子息バンジャマン・ド・ロートシルト男爵が所有するワイナリーのひとつです。ドメーヌ・バロン・ド・ロートシルト（ラフィット）は、バンジャマン男爵所有ワイナリーのワイン販売を担当しています。
55ヘクタールのブドウ畑には、メルロ（64%）、カベルネ・ソーヴィニヨン（24%）、カベルネ・フラン（12%）が植えられています。土壌は石灰質および粘土石灰質で、排水処理が施されています。石灰を多く含むこの土壌こそがワイナリーの名祖であり、ペイル＝ルバードとは「隆起する石」を意味するようです。敷地内には石灰石材の採石所跡があり、それら石材は近隣町村の建材として使用されたと考えられています。

Domaines Barons de Rothschild (Lafite) - 40-50 Cours du Medoc, 33300 Bordeaux
Tel. +33 5 57 57 79 79 - dbr@lafite.com
www.lafite.com

L'ABUS D'ALCOOL EST DANGEREUX POUR LA SANTÉ, SACHEZ APPRÉCIER ET CONSOMMER AVEC MODÉRATION.